

入学定員 & 一般選抜志願者数の推移 概要 & 注目点

調査方法 入学定員は、各大学のホームページや大学案内に記載された大学・学部・学科別の人数を、学部系統別・学科系統別に分類して集計(通信制大学・学部・学科の入学定員を含まない)

一般選抜志願者数は、公表があった大学を対象に集計(23年度は7/31までに公表のあった大学)
私立大の一般選抜志願者数には、共テ利用方式・共テ併用方式の志願者数を含む

占有率 入学定員全体・一般選抜志願者数全体に占める学部系統別の入学定員・一般選抜志願者数の割合

全体状況

	入学定員		一般選抜志願者数	
	22年度基準	10年度基準	22年度基準	10年度基準
私立大	100.7	110.7	96.0	114.4
国公立大	100.5	104.7	98.6	85.8

私立大

一般選抜志願者数は、受験生の安全志向による「年内入試へのシフトの進行」で、大幅減だった21年度(85.8)から4年連続の志願一般選抜の合格者数も、20~22年度の大幅増から、減少に転じる(98.0) 志願者数の減少(96.0)よりも小幅
この結果、志願倍率も実質倍率も下降が継続

一般選抜志願者数÷入学定員 10年度5.99倍 ⇒ 21年度6.53倍 ⇒ 22年度6.48倍 ⇒ 23年度6.19倍
一般選抜志願者数÷一般選抜合格者数 20年度3.80倍 ⇒ 21年度3.06倍 ⇒ 22年度2.86倍 ⇒ 23年度2.81倍

国公立大

コロナ禍の影響縮小で「上位~中堅上位私立大よりも中堅国公立大」志向も弱まり、国公立大全体では志願者減
この結果、志願倍率も下降

一般選抜志願者数÷入学定員 10年度4.01倍 ⇒ 21年度3.33倍 ⇒ 22年度3.35倍 ⇒ 23年度3.28倍

私立大

	入学定員		一般選抜志願者数	
	22年度基準	10年度基準	22年度基準	10年度基準
文系	100.4	102.6	95.6	101.1
理系	100.3	121.4	96.9	139.1

入学定員 ここ数年の入学定員増は、文系では国際・外国語系統、理系では理、理工・工、農・生命科学、看護・医療技術の4系統が中心
 文理融合系では、23年度情報が大幅増(110.0)、24年度も大幅増の継続が確実 10年度と比較すると、教員養成・教育、スポーツも大幅増
 志願者数 文系の志願者の減少幅が大きいのは、理系以上に「年内入試へのシフトの進行」が顕著であることを示す
 この4年間の志願者減継続で、法・政治、社会・社会福祉、生活科学・家政、教員養成・教育の4系統は、10年度基準を10%程度下回る状況に

占有率に注目した入学定員と志願者数のバランス

占有率＝系統ごとの入学定員・志願者数が、私立大全体の入学定員・志願者数に占める割合

法・政治

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.9	100.9	6.8	90.2	87.1	6.9

23年度の志願者大幅減で、一般選抜志願者の占有率(6.9%)は入学定員の占有率(6.8%)とほぼ同じ状況に
 23年度の大幅減は22年度大幅増の揺り戻しなので、大規模大学を中心に、入試競争の緩和は生じていないと推測される

経済・経営・商

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.1	101.8	19.5	99.7	108.9	21.2

一般選抜志願者数の占有率(21.2%)が、入学定員の占有率(19.5%)を上回る状況が継続 23年度は法・政治系統の難化警戒もあり、その差は拡大
 「年内入試へのシフトの進行」の影響は大きいですが、法・政治系統同様、大規模大学では極端な入試競争の緩和は生じていない状況

社会・社会福祉

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
101.5	98.9	6.9	93.1	90.4	5.4

コロナ禍による観光系統の志願者減、「年内入試へのシフトの進行」の影響もあり、社会科学系統の中では入試競争の緩和が最も顕著に
 「年内入試へのシフトの進行」は、社会科学系統の中では女子占有率が最も高いことも影響している
 4年連続の志願者減で、一般選抜志願者の占有率(5.4%)と入学定員の占有率(6.9%)との差が22年度以上に拡大

国際・外国語

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
99.6	117.2	6.7	93.6	116.5	5.3

22・23年度の一般選抜志願者数の減少継続は、コロナ禍の影響よりも、「年内入試へのシフトの影響」が大きいと思われる人文科学系統の中では意識が高い受験生も多いので、他系統以上に願校の絞り込みが厳しく行われているのではないかと

情報

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
110.0	95.4	2.2	98.3	149.4	2.7

23年度同様、24年度も数多くの学部学科の新設が予定されているので、入学定員の占有率はさらに大幅に上昇する文理融合の系統ではあるが、文系受験生の積極的な出願があるかどうか、大学ごとの志願者増減のポイントとなるのではないかと

文・人文・教養・心理

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.1	99.5	11.9	93.1	94.5	11.4

「年内入試へのシフトの進行」や、入試競争緩和による延べ志願者数の減少なので、この系統をめざす高校生の割合が縮小したわけではない入学定員・一般選抜志願者数ともに占有率はともに11%台になっており、バランスは取れている

理

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.0	113.1	2.1	98.3	114.1	3.8

一般選抜志願者の減少幅が小さかった(98.3)ので、占有率は上昇が継続していた22年度(3.8%)と同じ状態入学定員の占有率(2.1%)を大きく上回る状態が継続

この系統を第一志望とする受験生の中には、理学系統の学部学科が在住地区にないので、理工・工学系統に出願する人も少なくないと推測される

理工・工

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
99.9	105.2	11.1	97.4	174.4	21.0

この系統の学部学科を情報系統や農・生命科学系統の学部学科に再編する大学もあり、入学定員の占有率に大きな変化はなく、11%台で推移一方、一般選抜志願者数は23年度も小幅な減少だったので、占有率は上昇継続(20年度18.9% ⇒ 21年度19.6% ⇒ 22年度20.7% ⇒ 23年度21.0%)国公立大を第一志望とするトップ～上位層の出願も多く、難関～上位校を中心に、厳しい入試状況に大きな変化はない

農・生命科学

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
99.7	119.9	2.3	106.2	103.7	2.8

入学定員増は、理工・工学系統の学部学科をこの系統の学部学科に再編したことによるものも多い
全国的にこの系統の学部学科を設置する大学が多くなってきたが、志願者数の占有率(2.8%)が入学定員の占有率(2.3%)を上回る状況が継続

医

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.0	111.1	0.7	104.9	134.4	3.1

一般選抜志願者の占有率(3.1%)が入学定員の占有率(0.7%)を大きく上回っている状況に変化はない
国立大医学部を第一志望とするトップ～上位層の出願が増加しているため、合格ラインは下降せず、厳しい入試が継続している

看護・医療技術

	入学定員			一般選抜志願者数		
	22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
看護	101.9	211.1	3.8	90.6	164.4	2.2
医療技術	102.1	178.8	4.0	88.3	135.3	1.7
合計	101.9	181.8	8.1	89.7	142.2	4.0

※合計には、健康系統の学部・学科の入学定員・志願者数を含む
新設ラッシュ継続で入学定員の増加は継続だが、一般選抜志願者数は3年連続で減少
「年内入試へのシフトの進行」が顕著な系統なので、入学定員の占有率が一般選抜志願者の占有率を大きく上回る状況になっている
この10年間では、志願者数の増加幅が最も大きい系統だが、新設ラッシュ継続による志願者分散で、大学単位では志願者減となる大学も多くなった
各地区・各都道府県にこの系統の学部学科が存在するようになり、一般選抜での出願校数がかかり絞り込まれている

歯

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
98.5	92.0	0.4	93.4	153.6	0.2

10年度時点では、この系統には志願者数非公表の大学が多かったため、志願者数の10年度基準(153.6)は志願状況の推移を反映していない

薬

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
99.4	95.8	2.2	96.8	97.1	2.0

22年度は、一般選抜は8年ぶりに志願者増になったが、再び志願者減に。入学定員の占有率(2.2%)が一般選抜志願者の占有率(2.0%)を上回る状況が継続
薬剤師国家試験の合格率が低い大学を中心に、入学者の確保が難しい状況になりつつある
AIの開発により、将来的には薬剤師が余る状況になる可能性があることも、志願者数伸び悩みの要因になっているのではないかと
25年度以降、薬学部の新設・定員増が認可されないという方向性が、24年度の志願状況にどのような影響を与えるか

生活科学・家政

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
99.7	120.6	5.8	83.1	74.5	1.9

一般選抜志願者数は、他系統への流出、「年内入試へのシフトの進行」で、減少幅が最も大きく、占有率は1.9%まで下降
一方、この10年間に、短大から四大への移行、栄養系統を中心とした学部学科の新設も少なくなかったため、入学定員は大幅増
入学定員の占有率と一般選抜志願者の占有率の乖離が最も大きく(3.9ポイント差)、入学者の確保が難しい状況が明確になっている

教員養成・教育

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
100.8	156.7	3.6	89.1	91.5	2.3

20～23年度の一般選抜の志願者減は、「年内入試へのシフトの進行」と、他系統を第一志望とする受験生の併願の減少を反映
ここ数年、入学定員の占有率(3.6%)と一般選抜志願者の占有率(2.3%)の差異が大きくなり始めている

芸術・デザイン

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
101.1	100.6	3.7	99.3	118.0	1.8

スポーツ

入学定員			一般選抜志願者数		
22年度基準	10年度基準	23年度占有率	22年度基準	10年度基準	23年度占有率
101.4	178.6	3.3	93.3	112.4	1.3

芸術・デザイン系統もスポーツ系統も、入学定員の占有率が一般選抜志願者の占有率を大きく上回っている
どちらの系統も、もともと年内入試からの入学をめざす高校生の割合が大きいことを反映
どちらの系統も受験生一人当たりの出願校数が少ないので、実志願者の占有率はもう少し大きいと推測される
スポーツ系統の入学定員の増加率(178.6)は、看護・医療技術系統の増加率(181.8)に次いで高い